

地質ニュース

昭和62年5月

第393号

1987

昭和62年度の地質調査所の研究(1)……………企画室…6

北欧の鉱床—
第7回 IAGOD に参加して……………石原舜三…21

海底鉱物資源の成因・探査技術・開発の将来展望……………中尾征三…42

思いつくままの地学用中国語……………岸本文男…54

海外室だより……………海外室…65

口絵 スウェーデン点描

石原舜三

編集 地質調査所

発行 株式会社 実業公報社

表紙の写真

フンザの里の銅異常

ヒマラヤの山岳地帯は 中島輝允(1985-86)により「ヒマラヤの海とその消滅」
として本誌(376, 387, 389号参照)に画かれたように インド洋の誕生 アジア・
インド大陸の衝突と言った雄大な歴史を秘めている。しかし金属鉱物資源について
はきわだった情報に接したことはない。資源は存在しないのであろうか。

ヒマラヤには花崗岩深部層や変成岩のみならず 堆積岩 火山岩類も分布してい
る。したがって堆積性や火山性鉱床も分布するはずである。その可能性を求めて
当所とパキスタン地質調査所との共同研究が62年度から始められるが この写真は事
前調査の折 カラコルムハイウェイから対岸に見た含銅硫化物異常地である(9186年
3月18日撮影 石原舜三, 小笠原正継)。

6月号予定目次

地質調査所の研究(2)

第17回国際見本市と地質調査所の出展につい
て

「紹介」パーバー博士講演会

「日本の地質の統一的解釈をめざして」

タービダイトの話(7)

海底扇状地モデルの現状と問題点

COMFAN 計画の

地学用かな漢字変換辞書の作成

ソ連の地質事業管理体制